



MasterConsole Digital®

このたびは MasterConsole Digital (以下「MCD」と略) / ドロワー付き MasterConsole Digital (以下「MCD-LED」と略) をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。MCDは8~32台まで (モデルによって最大接続数は異なります) のサーバーアクセスを提供するKVMスイッチです。MCD-LEDは8~16台までのサーバーアクセスを提供するドロワー付きKVMスイッチです。MCDは4モデル、MCD-LEDは2モデルあり、MCDには2ユーザーアクセスモデルが用意されます。また、2層までの階層化接続が可能であり、最大1024台のサーバーアクセスを提供します。

このクイックセットアップガイドでは、一般的な設置手順について説明します。より詳細な使用方法につきましては、サポートページに掲載されておりますオンラインヘルプをご参照ください。(<https://www.raritan.com/jp/support/product/masterconsole-digital>)

内容物一覧

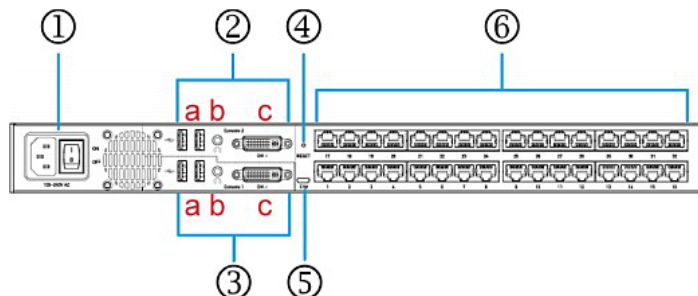
MCDおよびMCD-LEDの製品構成は、以下になります。

- MCDもしくはMCD-LED本体
- AC電源コード
- ラックマウントキット (ブラケットとネジを含む)
- DVI-I to VGA変換アダプタ

注意: DVI-I to VGA変換アダプタは、VGAモニターの接続もしくは階層化構成の構築時にMDUTP-VGAケーブルを利用した際に使用できます。後述の「キーボード/マウス/モニターを接続する」(P.3) または「階層化構成の構築 (カスケード)」(P.6) をご参照ください。

- クイックアップガイド (本ドキュメントの英語版)
- 製品保証書

後面図

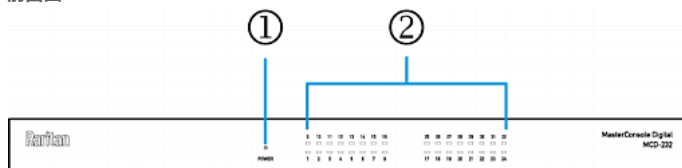


- 1) AC電源入力ソケットおよび電源スイッチ
- 2) 「コンソール2」用コネクタ (2ユーザーモデルのみ)
 - a: USB-A ポート (x 2)
 - b: オーディオ出力 (x 1)
 - c: DVI-I コネクタ (x 1)
- 3) 「コンソール1」用コネクタ
 - a: USB-A ポート (x 2)
 - b: オーディオ出力 (x 1)
 - c: DVI-I コネクタ (x 1)
- 4) リセットボタン
- 5) ファームウェアアップグレード用コネクタ
- 6) チャンネルポート (ポート数はモデル毎に異なる)

MCD ハードウェア概要図

以下は、2ユーザーモデルであるMCD-232の概要図です。

前面図



1. 電源LED
2. チャンネルLED (モデルによってLED数は異なる)

MCD ラックマウント手順

MCDは、標準的な19インチサーバーラックの1Uに取付可能です。ラックへの固定は、製品付属のブラケットとネジを使用します。

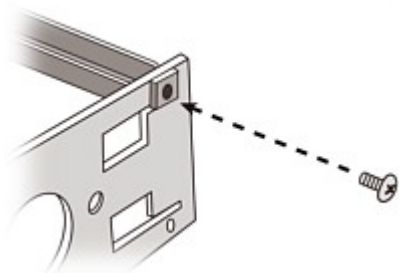
Step 1: ケーブルサポートバーの取付

ラックmountブラケットに取付されるケーブルサポートバーは、MCDに接続された全てのケーブルを支えます。このバーの適切な取付位置は、ラック内におけるMCDの前面パネルの位置によって異なります。

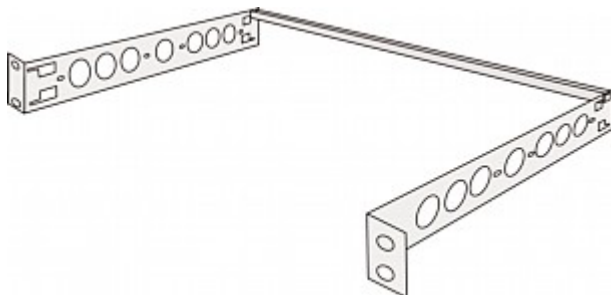
- MCDの前面パネルがラック前面方向設置の場合、ラックmountブラケットの「耳」とは反対方向のL字型の穴にケーブルサポートバーを固定します。
- MCDの前面パネルがラック後面方向設置の場合、ラックmountブラケットの「耳」の近くにあるL字型の穴にケーブルサポートバーを固定します。

ケーブルサポートバー取付手順

- 1) ケーブルサポートバーをラックmountブラケットのL字型の穴の1つに挿入します。
- 2) ケーブルサポートバーのネジ穴をラックmountブラケットのネジ穴と合わせたら、付属のネジで固定します。



- 3) 上記と同じ手順で、もう一方のブラケットにもケーブルサポートバーを固定します。(以下、完成図)



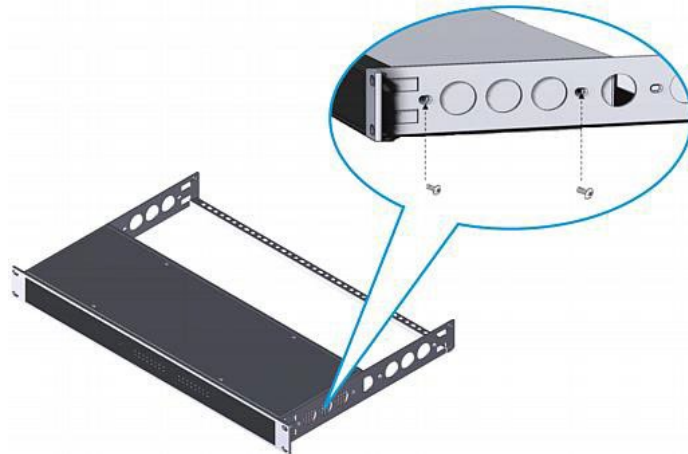
Step 2: MCDのラック取付

MCDはラックの前面および後面のいずれかに向けて取り付けることができます。

MCDのラック取付手順

- 1) MCDを2つのラックmountブラケットの間にスライドさせて挿入します。
- 2) 一方のラックmountブラケットの2つのネジ穴をMCD側面の2つのネジ穴と合わせます。

- 3) 付属のネジ (2本) を使用して、MCDとブラケットを固定します。

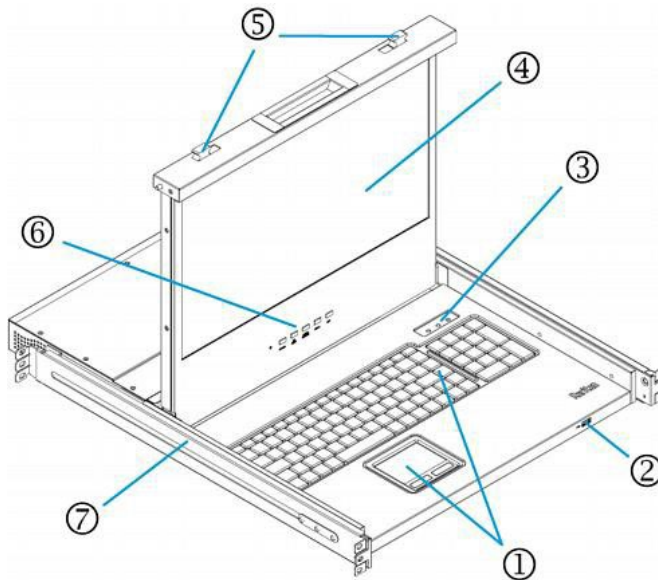


- 4) 同様の手順で、もう一方のブラケットも固定します。
- 5) ラック専用の留め具を使用して、ブラケットの「耳」をラック前面に固定して、MCDスイッチのラックmountを完了します。

MCD-LED ハードウェア概要図

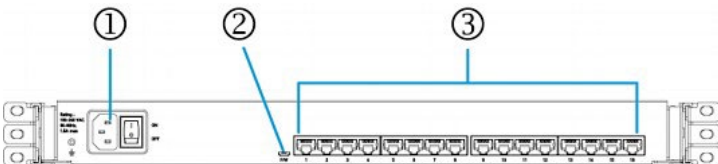
以下は、MCD-LED17116の概要図です。

前面図



1. タッチパッド/キーボード
2. USB HID準拠のキーボードおよびマウス接続用USBポート
注: USBポートにストレージデバイスを接続することはできません。
3. Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock の各インジケータランプ
4. TFT LCD ディスプレイ
5. パネルロック
6. OSDボタン、電源ボタン、インジケータランプ
7. 引き出し用マウントブラケット

後面図



1. AC電源入力ソケットと電源スイッチ
2. ファームウェアアップグレード用コネクタ
3. チャンネルポート

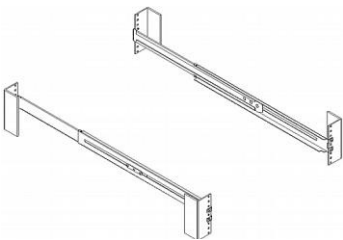
MCD-LED ラックマウント手順

MCD-LED 標準的な19インチサーバーラックの1Uに取付可能です。ラックへの固定は、製品付属のブラケットとネジを使用します。

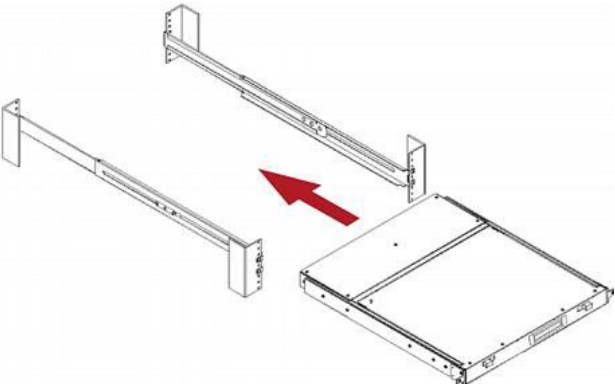
- 1) ラックの奥行に合わせて、ブラケット長を調整します。



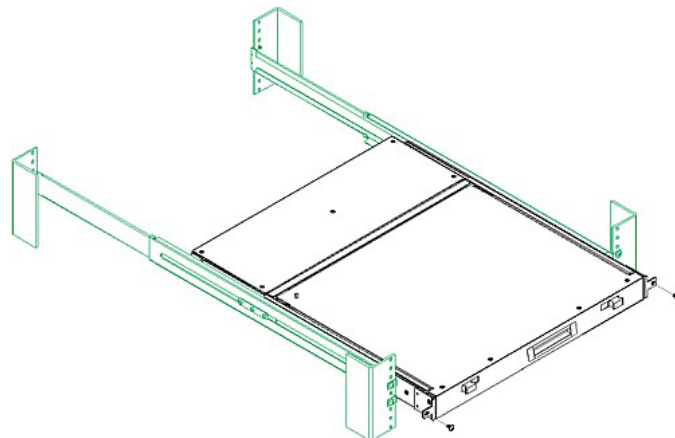
- 2) ラック専用の留め具で、ブラケットをラックレールに固定します。



- 3) ブラケットの間にMCD-LEDをスライドさせて挿入します。



- 4) MCD-LED をラックに固定します。



初期設定

MCD は「A」「B」「C」の手順で行い、MCD-LED は「A」「C」の手順です。

Step A: 接続対象に応じてMDCIMもしくはMDUTPを選択する

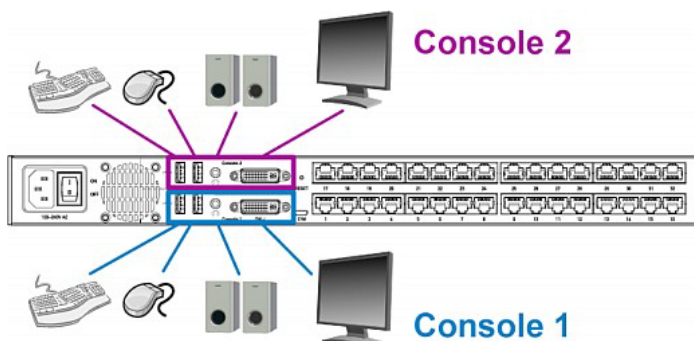
ビデオポートとオーディオ要件を確認して、MDCIMまたはMDUTPを利用します。

MCD CIM 名称	映像出力	音声伝送
MDUTP (ケーブル)	VGA	アナログオーディオ対応
MDCIM-DVI	DVI	不可
MDCIM-HDMI	HDMI	デジタルオーディオ対応
MDCIM-DP	Display Port	不可

注意: MDCIM もしくは MDUTP とサーバーのビデオポートを接続に変換アダプタを使用する場合、相性問題が発生することがあります。

Step B: キーボード/マウス/モニターを接続する

1. MCDおよびサーバー等の全てのデバイスの電源をOFFにします。
2. キーボード/マウス/モニターをMCDの「Console」コネクタに接続します。
 - VGAモニターを使用する場合、DVI-I to VGAアダプタを使用します。
 - ヘッドフォンやスピーカーは標準添付品ではありません。
 - MCDがデュアルユーザーモデルの場合、もう1セットキーボード/マウス/モニターを「Console」コネクタに接続できます。



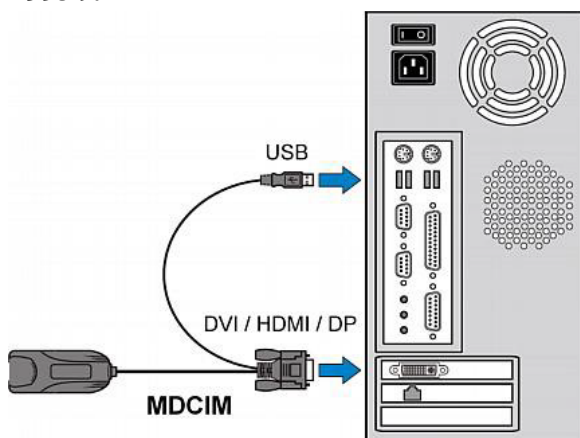
Step C: サーバーとの接続

1. MDCIM もしくは MDUTPケーブルをサーバーに接続します。

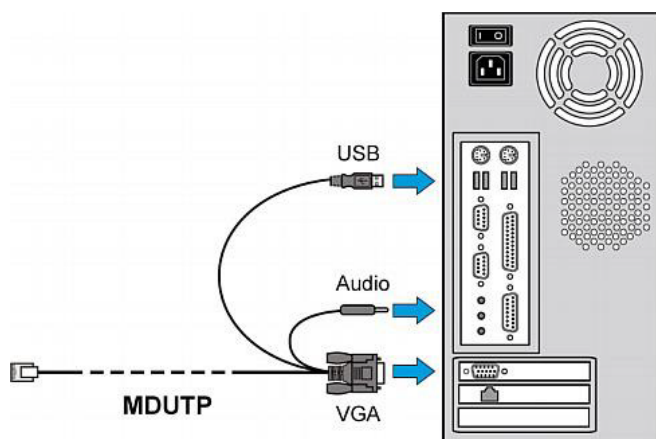
A: MDCIM もしくは MDUTPケーブルのUSBコネクタをサーバーのUSBポートに挿入します。

B: MDCIM もしくは MDUTPケーブルがサーバーの映像出力ポートと一致している事を確認してください。

前項P.3の「Step A: 接続対象に応じてMDCIMもしくはMDUTPを選択する」を参照して、適切なMDCIMおよびMDUTPケーブルを用意する必要があります。



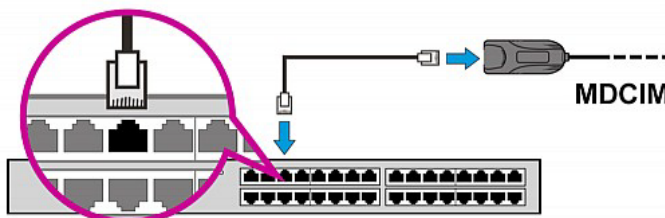
MDUTPケーブルを利用する場合、必要に応じてオーディオコネクタをサーバーのオーディオ出力ポートに接続してください。



2. MCDのチャンネルポートへ接続します。MCDとサーバーとの間のケーブル長は、45m以内としてください。

注: MDCIM を利用する場合、UTPケーブル (Cat.5e/6) を使用します。

注: MDUTPケーブルを利用する場合、延伸しないでMCDに接続してください。

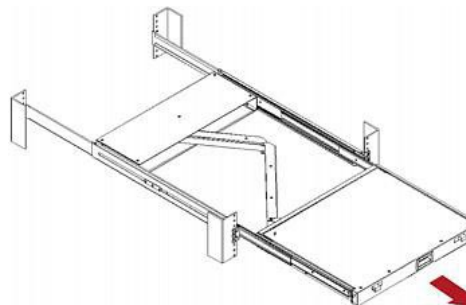


3. 前述の手順にて、接続対象の全てのサーバーをMCDへ接続します。

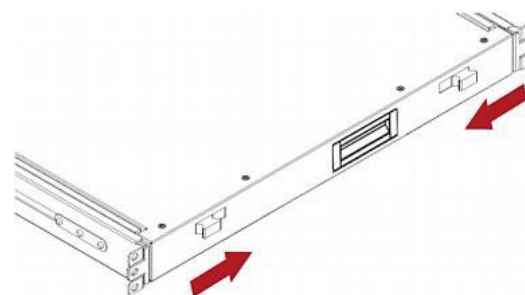
4. 全ての電源をONにします。

MCD-LED の利用手順

1. ラックマウントされたMCD-LEDを手前に引き出します。

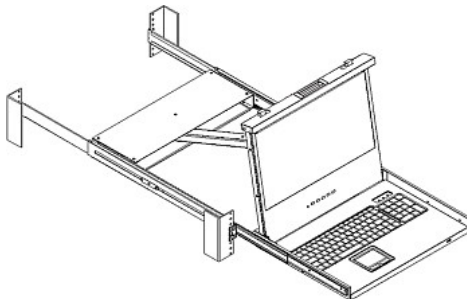


2. ロッキングラッチを中央にスライドします。



注: 製造時期によって「1」と「2」が逆の手順の事があります。

3. ディスプレイを開いて、電源ボタンを押下します。



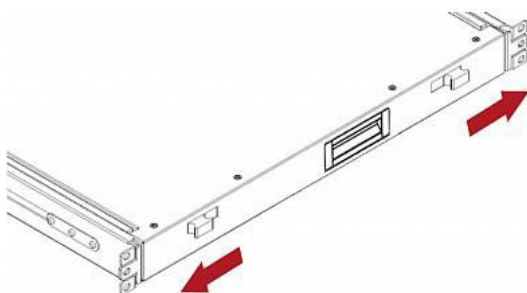
4. サーバーにアクセスした後、映像の調整を行う場合は、以下のいずれかを試行します。

- 「UP/AUTO」ボタンを押下して自動調整を実行。
- 「MENU」ボタンを押下して、「Auto Adjust（自動調整）」を選択して、再びMENUを押下して確定。

注: MCDに接続されたサーバーへのアクセス手順は、「サーバーへのアクセス」(P.5)をご参照ください。

5. 操作を終了したら、LCDディスプレイを閉じてロックングラッチを外側にスライドさせて固定します。

注: MCD-LEDを閉じる際には指をはさまないようにご注意ください。



OSDによる操作

MCDとMCD-LEDのOn-Screen Display (OSD) 操作は共通です。

ログイン

MCD/MCD-LEDの電源を入れると、ログイン画面が表示されます。初回ログインについては、管理者アカウントである「admin」を使用します。

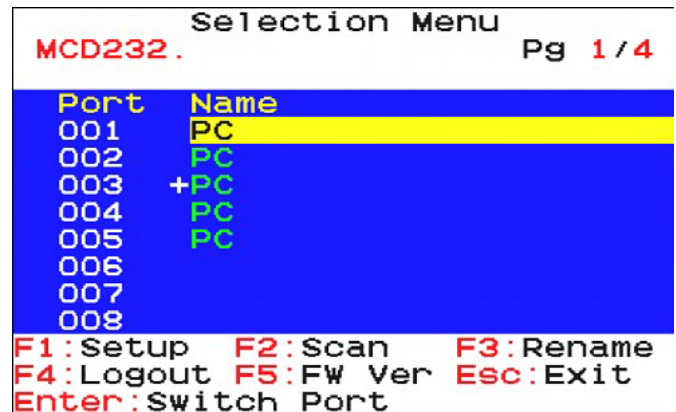
- 1) 以下のアカウントでログインを行ないます。

- User Name: admin
- Password: raritan



- 2) ログインが成功するとチャンネル選択画面が表示されます。

- チャンネル選択の手順は、「チャンネル選択メニューの利用」(P.5)を参照します。



重要: セキュリティの観点から、工場出荷時のパスワードを変更する事を推奨します。

サーバーへのアクセス

ログイン後に任意のチャンネルを選択して、サーバーに接続します。チャンネルを選択する方法は2つ用意されています。

- OSDに用意されたリストからの選択
- ホットキー (Hot keys)

チャンネル選択メニューの利用

OSDを呼び出すためには、OSDホットキーを使用します。初期状態でホットキーは「Scroll Lock」キーが割り当てられています。

- 1) 「Scroll Lock」キーを3回押すとチャンネルの一覧が表示されます。
- 2) 表示中のリストに目的のチャンネルが表示されていない場合、「Page Down」もしくは「Page Up」キーを押してリストをスクロールします。
- 3) 「↑」「↓」キーでアクティブなチャンネルを選択して「Enter」キーで決定します。

※ 「アクティブ」なチャンネルは名称（初期状態は「PC」）が表示されます。

注: 階層化構成で2層から1層に戻るためには「R」キーを押下します。

ホットキーの利用

ホットキーは、OSDを起動せずにチャンネルを切り替えることができます。

1) 画面にOSDが表示されていない状態で「Scroll Lock」キーを2回押下し、次にチャンネル番号を入力してから「Enter」キーを押下します。

例) チャンネル15に接続する場合

Scroll Lock > Scroll Lock > 15 > Enter

注: 最後のEnterキーを押下するまでは、チャンネル変更されません

2) 接続したサーバーの画面が表示されると、キーボードやタッチパッドで操作可能です。

ホットキーで次もしくは前の「アクティブなチャンネル」にアクセスする

- 1) OSDが表示されていない事を確認します。
- 2) 次のアクティブなチャンネルへアクセスするためには、右側の「Ctrl」キーを2回押下します。
- 3) 前のアクティブなチャンネルへアクセスするためには、左側の「Ctrl」キーを2回押下します。

ログアウト

サーバーでの操作を完了したら、不用意にMCD/MCD-LEDを操作されないようにシステムからログアウトしてください。

MCD/MCD-LEDからのログアウト手順

- 1) OSDを表示させるために「Scroll Lock」キーを3回押下します。
- 2) 「F4」キーを押下します。
- 3) ログイン画面が表示されたら、ログアウト完了です。

階層化構成の構築（カスケード）

2つ以上のMCDによる2階層の階層化構成を構築することにより、ユーザーがアクセスできるサーバーの総数を増やす事が可能です。

階層化構成では、第1層に1台だけMCDもしくはMCD-LEDを配置し、これを「ベーススイッチ」と呼称します。第2層には最大32個のMCDを追加できます。

注: ドロワー一体型のMCD-LEDは、ベーススイッチとして利用することはできませんが、コンソールポートがないため第2層に配置することはできません。

- STEP (a): 2層目のMCDをベーススイッチに接続します。
- STEP (b): キーボード/マウス/モニター（およびオーディオデバイス）をベーススイッチに接続します。
- STEP (c): サーバーを各MCDに接続します。

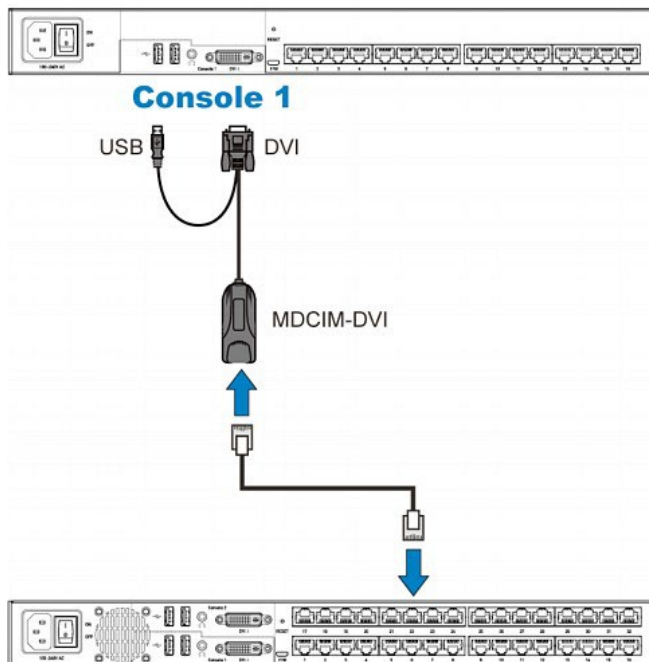
Step (a): 2層目のMCDをベーススイッチへ接続

階層化構成では、同一または異なるMCDモデルを混在させることができます。例えば、MCD-232をベーススイッチとして、MCD-116を2層目に配置することができます。

- 1) 階層化構成を構築するための全てのMCDの電源をOFFにします。
 - 2) MDCIM-DVIを使用して、2層目のMCDとベーススイッチを接続します。
- 注: 2層目に接続されたサーバーの音声伝送が必要な場合、ベーススイッチと2層目のMCDの間は、オーディオケーブルを持つ「MDUTPケーブル」と「DVI-I to VGAアダプタ（製品添付）」を使用して接続する必要があります。

- A) MDCIMまたはMDUTPケーブルを2層目のMCDの「Console 1」に接続します。「Console 2」に接続することはできません。
- B) MDCIMを利用する場合は、標準的なUTPケーブル（Cat.5e/6）を使用してベーススイッチのチャンネルポートに接続します。

Tiered MCD-116



Base MCD-232

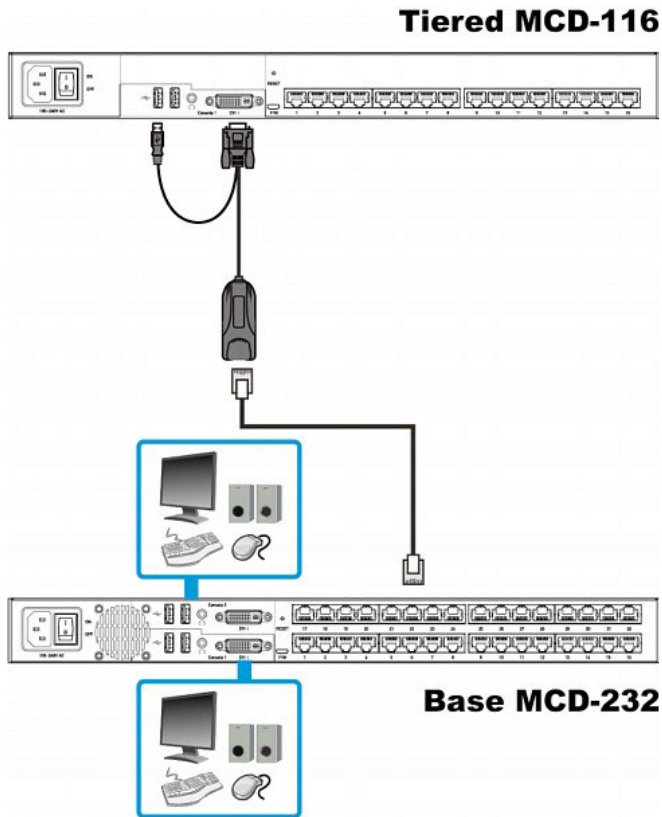
- 3) 全ての2層目のMCDを同様の手順でベーススイッチに接続します。
- 4) 全ての2層目のMCDの電源をONにします。
- 5) 2層目のMCDの起動を確認したら、ベーススイッチの電源をONにします。

重要: 2層目のMCDの情報をベーススイッチで取得するために、必ずベーススイッチより先に2層目のMCDの電源をONにする必要があります。

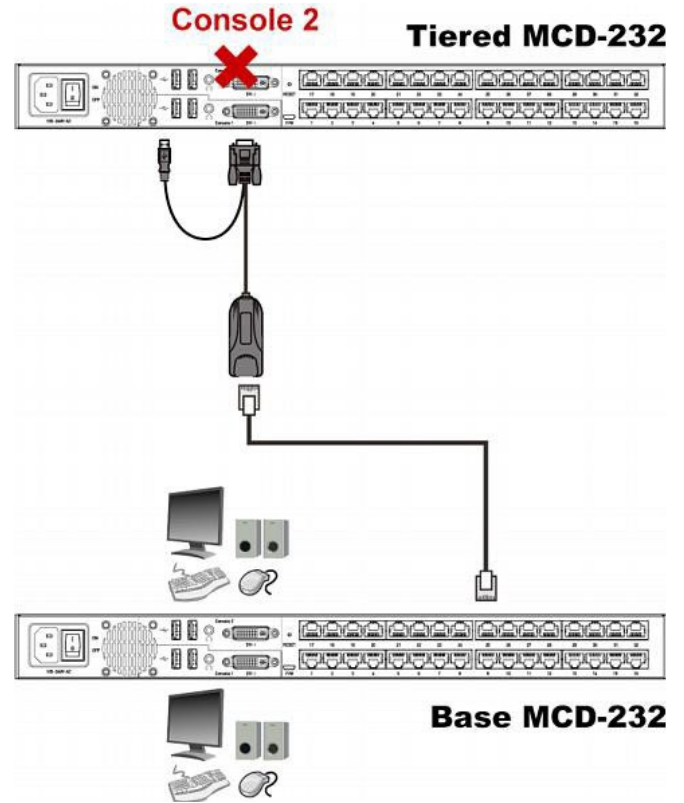
Step (b): キーボード/マウス/モニター（およびオーディオ）の接続

ベーススイッチからのアクセス用途のために、キーボード/マウス/モニターをベーススイッチに接続します。

詳細につきましては、本紙P.3の「Step B: キーボード/マウス/モニターを接続する」をご参照ください。

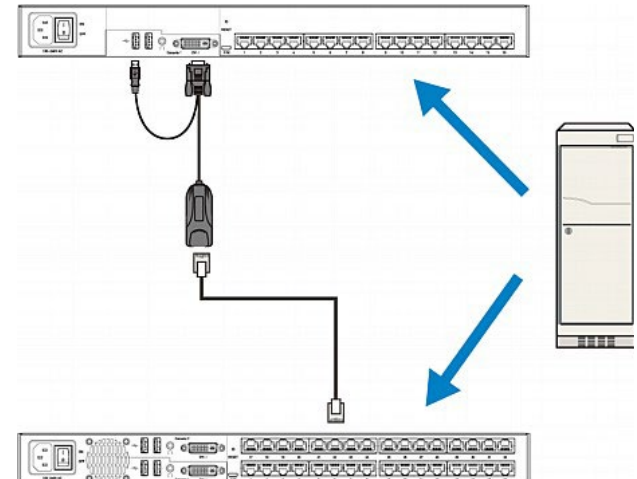


警告: 2層目のMCDがデュアルユーザーモデルである場合、Console 2は無効になりますので、キーボード/マウス/モニターをConsole 2に接続しないでください。



Step (c): サーバーの接続

サーバーは、ベーススイッチと2層目のMCDのいずれのチャンネルポートにも接続できます。詳細は、P.3「初期設定」の章を全てご参照ください。



その他

MCDおよびRaritanの全ての製品については、RaritanのWebサイトをご参照ください。MasterConsole Digitalのオンラインヘルプやユーザーガイドにつきましては、サポートWeb (<https://www.raritan.com/jp/support>) をご参照ください。また、技術的な問合せにつきましては、日本のテクニカルサポートへのご連絡ください。

(<https://www.raritan.com/jp/support/contact-analog-kvm-support-form>)